

徳島駅周辺まちづくり計画の概要

徳島駅周辺まちづくり計画について

徳島駅周辺まちづくり計画の目的と位置づけ

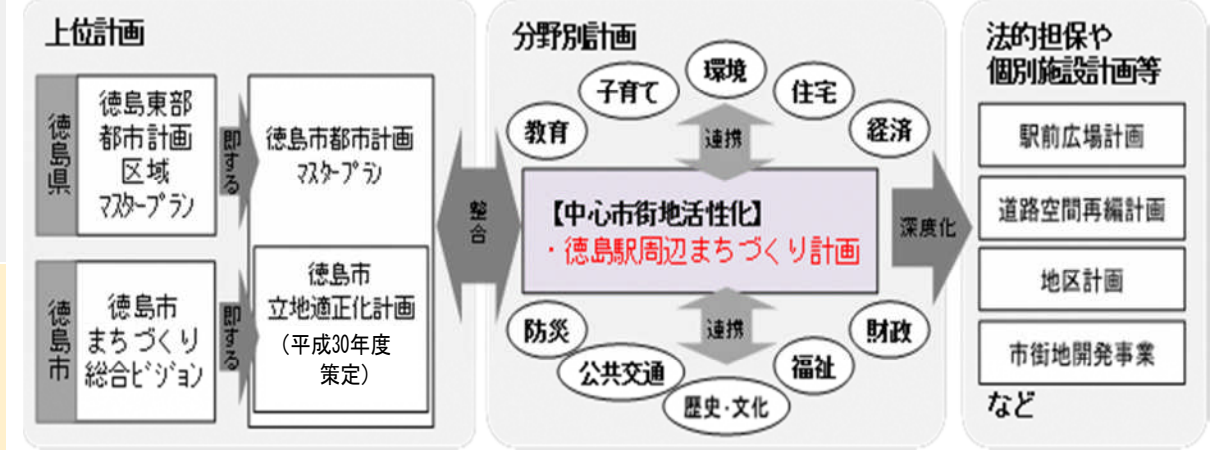
徳島市内鉄道高架事業（事業主体：徳島県）と一体的なまちづくりを行うため、平成22年に策定した計画（案）を、より一層のにぎわいの創出、都市の魅力づくり、公共交通の利用促進等の観点から見直し、新たに徳島駅周辺まちづくり計画を策定する。本計画は、本市上位計画等との整合を図りつつ、徳島の玄関口にふさわしい拠点の形成に向けた方針や施策を定めるもので、その他の分野別計画と連携しながら、徳島駅周辺のにぎわい創出等に取り組んでいく。

なお、今後の社会経済情勢の変化や各種事業者等との調整により、必要な場合は、柔軟に計画内容の検証・見直しを行い、円滑なまちづくりを進めていく。

徳島駅周辺まちづくりの必要性

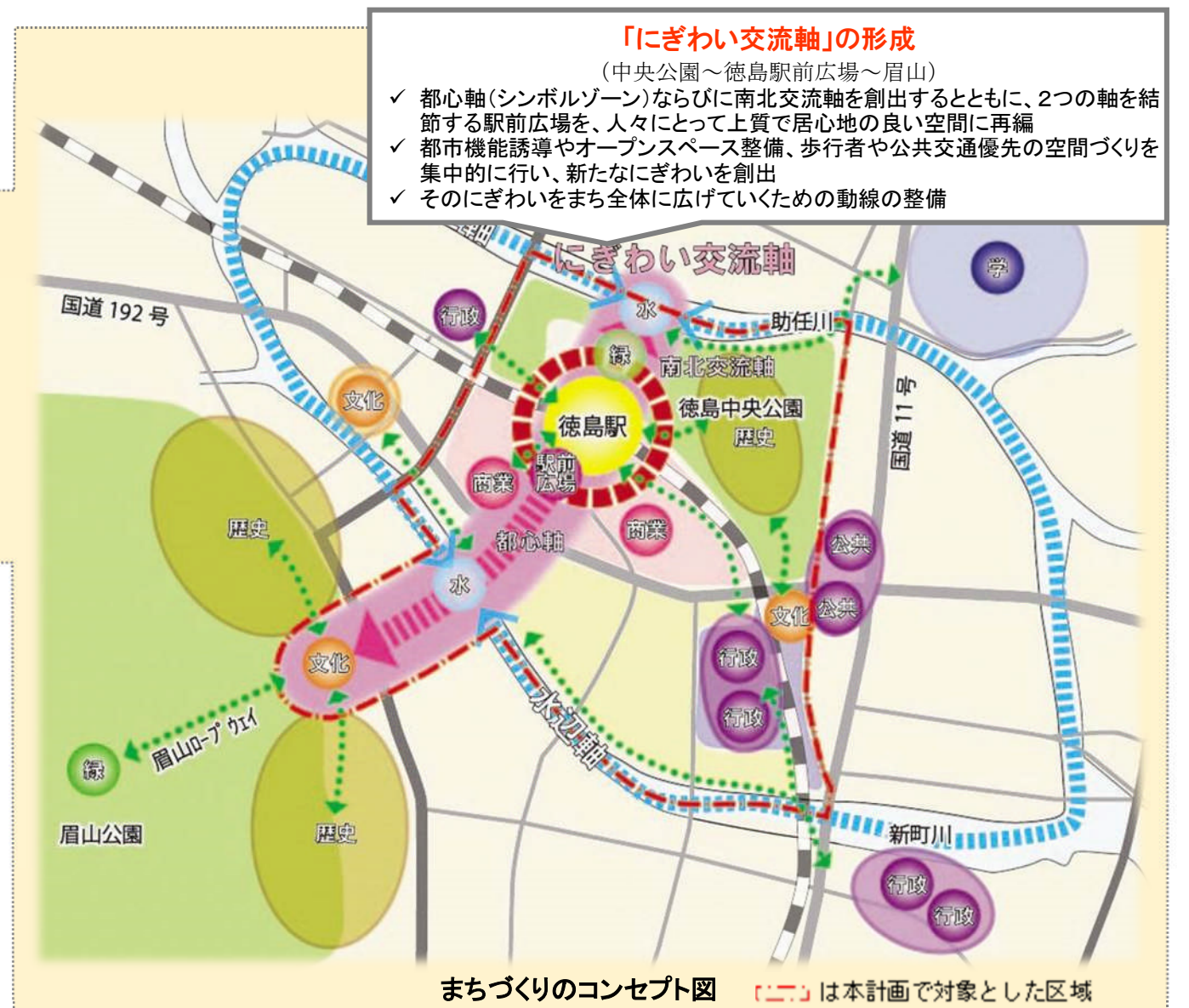
徳島駅周辺には、多様で拠点的な都市機能の集積や、水や緑といった本市ならではの資源が存在するほか、鉄道・バスといった複数の交通の結節点としての機能があることから、都市構造上の極めて重要な場所と位置づけられている一方で、低未利用地の増加など、多くの課題がある。

こうした中、徳島駅周辺で新たなにぎわいを創出し、都市の活力を高めていくためには、官民が連携して、徳島駅周辺のまちづくりを着実に進めることが極めて重要となる。



徳島駅周辺まちづくり計画の位置づけ

徳島駅周辺のまちづくりの基本的な考え方



まちづくりのコンセプト図 〇〇〇は本計画で対象とした区域

四国東部の中核都市にふさわしい都市機能を集積し、にぎわいを創出する

- ◇都市機能の強化・更新・誘導等による都市拠点形成
行政・業務・商業・文化・観光・歴史・スポーツ等、既存機能の強化・更新及び新規機能の導入により、本市の玄関口にふさわしい都市機能を集積し、人々の活動の中心を徳島駅周辺に誘導する。
- ◇鉄道高架事業により生み出される土地や空間などを活用したにぎわいづくり
鉄道高架事業に伴い、車両基地跡地の活用や徳島駅前広場の再整備と連動しながら、既存施設や地域資源との連携を考慮しつつ、駅周辺用地の高度利用を誘導し、シンボル性の高い建物と広場空間の活用によりにぎわいを創出する。
また、高架下空間についても、駅利用者の利便性を高める機能を充実させる。
- ◇文化施設整備等による新たな芸術文化機能の集積・展開
芸術文化活動の拠点として新ホールを整備するとともに、芸術文化をテーマとした新たな店舗の立地や駅前広場周辺でのイベント開催により、にぎわいを創出する。
- ◇観光情報の発信
観光客へのインフォメーション機能や発信機能の強化、地域資源等を生かしたコンテンツの強化により、魅力あるまちなか観光や滞在型観光を促進する。
- ◇民間の投資を呼び込むための公共空間の魅力化
駅前広場・歩行者空間の再整備及び歩行者が安全に楽しみながら回遊し、滞在できる仕掛けづくりにより、にぎわいの広がりや連続性を創出する。
- ◇まちなか居住の推進
徳島駅周辺の都市機能集積や利便性を生かした、民間事業者によるまちなかにふさわしい住環境の整備を促進する。



事例：天理駅前広場 コフファン



事例：みおつくしプロムナード(大阪市)

地域資源を身近に感じることができる都市景観と、人々が歩いて楽しみ、滞留や交流が生まれる居心地よい公共空間を創出する

- ◇人が集い、にぎわいに触れられる公共空間の創出
徳島駅前広場等の空間を再整備し、多彩なイベントや文化芸術活動等が開催できる空間を整備する。特に、にぎわい交流軸上では、歩行者や自転車優先の空間への再編を進め、にぎわい創出につながる公共空間を連続的に整備する。
- ◇本市の顔（シンボル）となる玄関口としてふさわしい徳島駅や駅周辺のまちなか・眺望景観形成
駅前におけるシンボルアートやモニュメントの整備、公共空間における植栽や緑化、照明技術を駆使した効果的な夜間景観の演出等、玄関口にふさわしいシンボル景観を形成する。
- ◇新町川・助任川の水の資源を感じられる空間の形成
ひょうたん島川の駅ネットワーク構想に掲げる、川の駅・停留所の将来的な整備により、水を感じられる空間を拡充する。
- ◇徳島中央公園や眉山の緑、徳島城の歴史などを楽しめる空間の形成
徳島中央公園や眉山等の公園・緑地空間については、植栽や樹木等の適切な維持管理とともに、利用ニーズに応じたサービス施設の充実、アクセスしやすい動線の確保等により、利用を促進する。



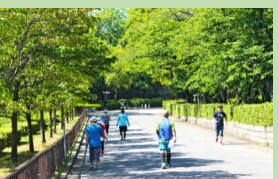
事例：姫路市駅前の歩行者空間



事例：日向市駅前広場の交流広場



事例：素材や植栽に留意した休憩スペース(甲府駅)



ウォーキングの場としての活用イメージ

安全・快適に移動・回遊できる人と環境にやさしい交通体系や空間を整備し、人々の動きやにぎわいをまち全体に拡大させる

- ◇安全に移動や待ち合わせ等ができる駅前広場や歩行者空間の整備・機能向上
駅前広場の交通施設と歩行者空間の配置を見直し、駅正面の空間にはまとまった規模の歩行者・にぎわい空間を創出するとともに、車両と歩行者の動線を見直し、公共交通利用者や徳島駅周辺来訪者が分かりやすく利用できる駅前空間へと再整備する。
- ◇鉄道高架事業による鉄道横断動線の整備
鉄道高架事業を推進し、鉄道の高架化を図りつつ、道路ネットワーク整備を推進する。
- ◇歩行者や公共交通が優先された道路空間の再編
駅前から阿波おどり会館に至る国道438号や一番町の道路空間を見直し、歩行者や公共交通のための空間を拡大するとともに、通過交通の通行を抑制することにより、市民や来訪者の回遊を創出する。



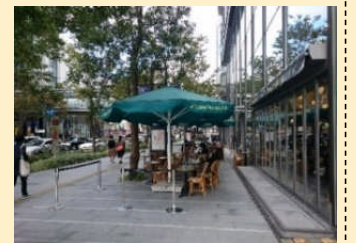
- ◇公共交通の利用促進
徳島駅及び周辺施設利用者が利用しやすい駐車場や駐輪場を整備する。徳島駅及び周辺施設への来訪や徳島市中心部居住者の日常生活において、公共交通の利用を促進するための取組を推進する。
- ◇回遊を促すための多様な移動手段の導入
徳島駅周辺歩行者空間や水辺等を楽しみながら回遊できる回遊性、機動性の高い移動手段を導入する。

多様な運営主体によるまちづくりのハード・ソフト両面の取組を強化・支援することで、まちなかにぎわいと活気をもたらす

- ◇まちづくりを進めるための組織体制
徳島駅周辺のまちづくりには、行政内の縦割りを越えた連携や、官民協働でまちづくりに取り組める仕組みが必要である。徳島駅周辺のまちづくりを効果的に進めるため、外部専門家の招へいも含めた組織体制により、まちづくりについて検討する。
- ◇エリアマネジメントに携わるまちづくりの担い手の育成・確保
徳島駅周辺のまちとしての価値を高め、暮らしやすく、来訪したくなる環境を整えるためには、公共だけでなく、民間が積極的に特定のエリアのまちづくりや地域経営を行う「エリアマネジメント」の取組が重要であることから、官民協働型のまちづくりを行うため、その主体となる担い手を育成・確保する。
- ◇にぎわいを創出するための徳島固有の文化・産業の活用
本市固有の文化・産業を生かし、新たなにぎわいと交流の促進を目指す。
- ◇まちづくりの担い手によるソフト施策の推進
都市再生推進法人等が、駅前広場や道路等の公共空間を有効活用し、人が来る目的づくりを行い、まちなかにぎわい・交流の創出や来訪者の利便促進に寄与するための様々な取組を実施する。



まちなかマルシェ



オープンカフェ